



同窓会報

目次:

令和5年度事業報告	2
同窓生便り	3
令和6年度事業予定	4
学生就職支援交流会 兼 名刺交換会のご案内	4
同窓生の活躍	5
体育学科生の活躍	6-7
写真で見る体育学科の「今」	7
インフォメーション	8



文理学部体育学科同窓会、会員の皆様におかれましては、日ごろから、本会の運営にご尽力を賜りありがとうございます。心からお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から「5類感染症」に移行して約1年が過ぎましたが、本会では、昨年1年間も会の運営は、慎重に対応してまいりました。

昨年度の諸活動は、会員の皆様のご協力と、文理学部及び文理学部校友会、更には文理学部体育学科教職員の皆様をはじめ、多くの方々からのご支援を賜り、滞りなく実施することが出来ました。改めてお礼申し上げます。

今年度は、会の運営を従来の状態に戻すと共に、より効果的な同窓会活動を目指して努力してまいります。

つきましては、会費納入が滞る事により、同窓会諸事業の実施や事務局運営等に影響が出ないよう、改めまして会員の皆様に会費の納入につきましてよろしくごお願い申し上げます。

また、同窓生同士の連携・連絡を更に強固なものにして、会費納入率を上昇させ、その結果、これまで十分でなかった部分を補う事で、更に同窓会活動の活性を図ってまいりたいと考えています。そして、今年度の各種事業の実施につきましては、母校への感謝の気持ちと在校生への支援に向けまして、社会情勢を注視しながら、同窓

会ホームページ等を活用して、会員の皆さまにお知らせしてまいります。

なお、同窓会の諸事業・諸活動につきまして、ご意見等がございましたら、同窓会事務局までご連絡をお願い致します。

結びに、母校の益々の発展と会員の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして挨拶いたします。

同窓会長
第18期 小野 力



令和5年度 事業報告

代議員会および講演・懇親会

令和5年11月25日、日本大学桜門会館にて、「令和5年度日本大学文理学部体育学科同窓会代議員会及び講演・懇親会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症流行の影響で4年ぶりに対面での実施となりましたが、上は第1期から下は第61期まで幅広い年代の同窓生が集まりました。

第一部の代議員会では、幹事期(令和5年度は2・7の付く期)の同窓生から、議長2名・書記2名が選任され、同窓会事業や決算・予算についての報告ならびに議案の承認が行われました。決算・予算報告の中で、同窓会運営の主な収入源である「卒業生会費」の減収が報告されました。まずは「体育学科同窓会」を認識してもらうことが第1歩だと思いますので、現役生と関わる事業の実施を含め、代表幹事会を中心に継続審議していくこととなり、最後に議長団の解散をもって代議員会は終了しました。

第二部では第37期の木下智愛氏に講演を賜りました。木下氏が所属する株式会社SBCは、美しく磨かれた肉体美・健康美を披露する様々なコンテストの中でも、特にエンターテインメント性の高い「Super Body Contest」を主催している会社で、そのコンテストを文理学部百周年記念館で開催したいと大学に足を運んだことがきっかけとなり、今回の講演を担当していた

くこととなりました。今回は1時間という短い時間ではありましたが、印象深い話がたくさんあり、全てをご紹介したいところですが、ここでは語り尽くせませんので一部だけ紹介します。「私は日本大学文理学部のブランドをすごく誇りに思っています。」と語る木下氏。現在の日大の問題には心を痛める部分もあるとのことでしたが、最後にお話いただいた「この問題が私たちの母校に備わっている素晴らしい部分を否定するものではありません。このような時だからこそ、私たちOBが社会で活躍することにつながると思っています。」という強い意志の込められた言葉がとても印象に残っています。1時間では語り尽くせないほど多くの出会いや経験をされた、「思い立ったら絶対に行動に移す」木下氏の活力に満ち溢れた講演でした。

第三部の懇親会では、第1期春山氏の挨拶と、副会長の第20期平岡氏の乾杯の音頭の後、年代の垣根を超えて談笑する姿が各所で見られたにぎやかな会となりました。盛会の中、第31期会小針会長からの挨拶で閉会となりました。

コロナ禍を超えて、また同窓会事業も徐々に再開していきたいと思いますので、同窓生の皆様からもアイデアをいただけますと幸いです。たくさんの同窓生とお会いできる機会を楽しみにしております。

第三部の懇親会では、第1期春山氏の挨拶と、副会長の第20期平岡氏の乾杯の音頭の後、年代の垣根を超えて談笑する姿が各所で見られたにぎやかな会となりました。



木下智愛氏による講演

＼Pick UP／

第37期 木下智愛

陸上競技ハイジャンプ日本記録保持者で日本大学卒の父を持ち、幼少期からスポーツは大変身近なものであった。家族を始めとした周囲の人々の影響もあり、幼少期からのクラシックバレエや新体操で身につけた身体能力を活かし、大学ではダンス専攻、ダンス部に所属。

現在は、株式会社SBCのSenior Managing Directorとして「Super Body Contest」のプロデュース、コンテストの運営・進行を行っている。

な会となりました。盛会の中、第31期会小針会長からの挨拶で閉会となりました。



コロナ禍を超えて、また同窓会事業も徐々に再開していきたいと思いますので、同窓生の皆様からもアイデアをいただけますと幸いです。たくさんの同窓生とお会いできる機会を楽しみにしております。



冬季スキー指導者研修会

冬季指導者研修会は第50回の節目となりました。コロナ禍において開催の中止、感染症対策を施しながらの開催が続いていた期間に、この研修会で長年にわたり講師をつとめていた秋田勝彦先生、講師経験があり、長年受講者として参加をされていた徳永富夫先生が他界されました。受講者として参加いただいていた方の中でも他界された方がいらっしゃいます。「コロナ禍があげたら…」、「次回も…」と言葉を交わして、お会いできなくなってしまい、たださみしい思いが残ります。この研修会への長年の功績と貢献に感謝しつつ、ご冥福をお祈りいたします。

一方で、10数年、20数年ぶりにご参加いただいた方もおり、懇親会では思い出話で盛り上がりました。講習としては14名での実施となり、級別テストでは、本年度も1級受

検者がおり、1名が合格しました。次回にむけて、より参加しやすい日程、内容を検討してまいります。これまで参加いただいた方、新たな参加含め、より多くの方々にご参加いただけることを願っております。(第35期 重城哲)

検者がおり、1名が合格しました。

次回にむけて、より参加しやすい日程、内容を検討してまいります。これまで参加いただいた方、新たな参加含め、より多くの方々にご参加いただけることを願っております。

(第35期 重城哲)



日本大学文理学部体育学科13期卒業同期会「逸賛会」

第13期代議員 三浦敬司

私たちが1969年4月に大学に入学した当時は、学生運動が一番激しい時期だったと思います。授業が休校になることが多く、大変だったことを思い出します。そんな私たちが卒業を迎えたのは1973年3月、そして今回の同窓会開催が卒業から50年という節目になりました。最初は現在13期の代議員になっている谷田部氏と2022年7月に池袋で50年ぶりに会い、卒業50周年の再会をしようと相談したところから始まりました。まずは一緒に協力してくれる仲間を集めることから始まり、第1回の幹事会(実行委員会)が8月に実施、東京周辺に住む8人の協力を得ることができました。次々が50周年記念となる年なので、まずは期日を決め、場所を決め、予算を決めるところまでを話し合いました。期日は2023年11月13日と決まり、それに向けて会場探しとなりました。会場は地方からくる方のことも考え、みんなが分かりやすい新宿に決まり新宿周辺の会場探しが始まり、いくつかの候補から都庁向かいの「ハイアットリージェンシー東京」に決まりました。

そこから毎月のように東京体育館会議室で実行委員会、その後の2次会は千駄ヶ谷駅徒歩2分の蕎麦居酒屋「高田」が毎回の会場となりました。課題は全員の住所確認でした。しか



実行委員会(高田にて)

し、日本大学文理学部体育学科には「同窓会会員名簿」と言うものがあり、これはとても役に立ちました。実行委員の中にはこの名簿の中にある「住所不明者」との繋がりがあられる方もいて、卒業生175名中135名の住所がわかりました。またこの50年ぶりの同期会の前に2度同期会が実施されており、その30数年前の会費残金を池田氏が保管していたのにはびっくり、さらにその時に恩師で出席されていた濱田先生より13期をもじって「逸賛会」と記した色紙まで保存されていたことには頭の下がる思いでした。当然、実行委員会において同期会は「逸賛会」と称して実施することで一致、団結もさらに固くなっていきました。年が変わり詳細が決まっていく中での一つ問題がでたのは「参加者の記念品」でした。あるとき「高田」で飲みながら谷田部氏から同期の本池氏(世界的革工芸作家で本池美術館主宰)に頼んでみたところ快諾いただきました。あとで本池氏の作品など調べてみたところ、私たちがいかに図々しく安価で頼んだのか申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そうこうしているうちに日にちは迫り、南は奄美大島から北は北海道より

33名の出席が届けました。そして同期会「逸賛会」当日には早田先生のご臨席も賜り、50年ぶりなのにどの顔も忘れられない顔ばかりでした。奄美大島



早田先生を囲む

から参加の福山氏の乾杯の音頭で開宴、大久保氏の当時の写真なども

当日PCにて見ることができたのもよかったです。一次会並びに二次会の締めは、学生時代を思い出させる校歌や応援歌で盛り上がり、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。協力してくれた実行委員(幹事)の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。そして参加してくれた同期には「ありがとう」とお礼を言いたいと思います。



「逸賛会」集合写真

第31期会活動報告

第31期会幹事長 田中哲弘(日本大学本部総合企画室)

平成4年3月に卒業した我々第31期は、体育学科の発展・興隆に寄与することを目的に「体育学科同窓会を盛り上げて行きたい!」という強い想いのもと、平成27年2月に「第31期会」を設立。体育学科同窓会が初めて正式に設立を認めた下部団体となります。

これまでの主な活動としては、体育学科創立60周年にあたり、記念式典(平成29年7月開催)を目途に卒業生として、何かを『カタチ』にして広く社会に日本大学文理学部体育学科の名を配信していきたいと思い、第31期会企画として記



60周年記念式典にて

念ポロシャツを作成することを提案、実現いたしました。記念式典当日には、会場入口に販売ブースを設け、式典に参加された体育学科卒業生の多く方にも購入いただいた次第です。31期同期には、記念ポロシャツの購入と併せて体育学科同窓会に対する個人寄付金も呼びかけ、多くの同期から賛同を得ることができました。

最近の活動としては、令和5年11月に開催された文理学部櫻麗祭において、同期の篠原広明氏(茨城県那珂市役所勤務)に依頼し、那珂市の農産物等を紹介・販売するブースを設けました。これは、同期の青山清英氏(文理学部体育学科教授)の故郷である那珂市が文理学部と包括連携協定を締結していることもあり、大学と地域社会が連携、共存していく試みの

一つであると捉え実現した企画です。このような企画を第31期会が率先して展開できるよう引き続き努めてまいります。

一点、大変残念なことは、第31期会設立時に会長として牽引してくれた打木新一氏が令和4年10月に永眠されたことです。打木氏の日本大学文理学部体育学科を愛する気持ちは我々が受け継いでまいります。ご冥福をお祈りいたします。



桜麗祭那珂市PRブース

令和6年度 事業予定

- 8月中旬 東京都教員採用試験二次試験対策講座(東京都保健体育教師会主催)
- 10月26日(土) 代議員会
学生就職支援交流会 兼 名刺交換会
- 11月4日(日) ホームカミングデー
- 3月下旬 冬季スキー指導者研修会

「学生就職支援交流会 兼 名刺交換会」とは

学生に対する就職支援と
会員相互の親睦を深めるこ
とを目的とした交流会です。
会場は文理学部3号館1階
カフェテリア「秋桜」。

これまでに2度(2015年、
2019年)実施し、前回の
2019年は、同窓生を中心と
した企業・公務員・教員、約
200名の方々にご参加いた
だき、学生を合わせて300
名を超える盛大な会となり
ました。

過去の開催の様子



令和6年度体育学科同窓会代議員会及び 学生就職支援交流会 兼 名刺交換会

令和6年度体育学科同窓会代議員会を、下記の日程で開催いたします。今年度は、代議員会と同日程で「学生就職支援交流会 兼 名刺交換会」も開催いたします。詳細は下記をご確認ください。

記

日程 令和6年10月26日(土)

【同窓会代議員会】

時 間 14:20～15:00 (受付 14:00～)
会 場 日本大学文理学部3号館2階 3204教室
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

【学生就職支援交流会 兼 名刺交換会】

時 間 16:00～18:00 (受付 15:15～)
会 場 日本大学文理学部3号館1階 カフェテリア「秋桜」
参加人数 企業50名 教員30名 公務員20名 学生150名(予定)
会 費 無料
申込方法 10月13日(日)までに以下のいずれかの方法でお申し込みください。



専用フォームからの申込み

下記QRコードまたはURLよりお申込みください。



[https://forms.gle/
WCLcujBpBcof9Lnh7](https://forms.gle/WCLcujBpBcof9Lnh7)

メール・電話からの申込み

メールでのお申込みは、下記情報をご記載の上、
nupe.doso.meishi@gmail.com
にお送りください。

[記載事項]

- ・ご氏名(ふりがな)
- ・卒業年度(期)
- ・業種・職種
- ・お勤め先
- ・ご連絡先(携帯電話番号)

電話でのお申込みは、事務局の増田(03-5317-9717)にお電話ください。

※交流会実施に当たって収集する個人情報及び撮影した写真は、本会で行う事業の充実や円滑な運営のために使用することを目的とし、その目的の達成に必要な範囲内で適切に利用いたします。

同窓生の活躍

第58期 鈴木孝太郎 特定非営利法人ChanceForAll所属



第58期の鈴木孝太郎と申します。本学では保健体育の教員を志し、伊佐野先生のゼミ生として所属

していました。

卒業後は特定非営利活動法人ChanceForAll(以降CFAと記載)という足立区と墨田区にある8校舎の民間学童や学生主体で駄菓子屋を運営する団体に「社会起業校」として採用いただき、日々学童保育の業務や社会起業について学んでいます。

本学に在学していた当時は、実習体育祭委員として主に活動。3年生では「総務」として体育祭を作り上げる立場になり、参加者のみんなが楽しんでる姿を見られたのが印象的でした。

卒業後は「こどもの居場所づくり」に

励み、CFAで学童の先生の業務をしながら、親に頼ることができない10代が住むシェアハウスやまちの図書館「なにかし堂」を立ち上げました。「なにかし堂」を立ち上げた際は、伊佐野先生が何度かお子さんをつれて顔を出してくださったのが大変嬉しかったです。現在は、CFAとの協業でスパイスカレーのお店の開業準備をしています。突然「スパイスカレー？」となるかもしれませんが「カレー」です。現行のこども食堂へ”問い”を立て、持続可能性の高い「次世代型こども食堂」をつくります。ここでは、こども若者たち(0-18歳まで)が常に低額で食べることができる仕組みを導入します。寄付や売上の一部を還元し、こどもたちが自分の意思でこられる飲食店を目指します。昨年、「まずはスパイスカレーで勝負!」と思い、足立区梅島にて日曜日限定でスパイスカレーのお店を開業し、日曜日限定にも関わらず多くの方に足を運んでいただきまし

た。そして、様々な状況とタイミングが重なり、ありがたいことにお店の開業準備が進んでいます。「次世代型こども食堂」を実現すると「こどもたち・若者たちを取り巻く”負”の課題(孤独・自殺・いじめetc...)”に対する”予防”」に繋がると強く思います。この活動に共感し、寄付や支援、一緒にこどもたちの笑顔を守る仲間も絶賛募集中です。今年の夏にはOPEN予定です。皆様のご来店お待ちしております。

Follow Me!



「SpiceRestraunt ことこと」
について詳細はコチラ

第60期 奥村忠広 JICA海外協力隊所属



第60期の奥村忠広と申します。本学には大学院を含め、6年間在籍していました。大学院を修了し、現在は

JICA青年海外協力隊員として、アフリカのカメルーン(Cameroun)という国で国際協力に携わっています。

在学中は、松本恵先生の研究室に所属し、スポーツ栄養学について見聞を広げてまいりました。中でも栄養教育分野について強い関心があり、大学院では食や栄養に関する知識を題材に研究を行いました。また、研究活動以外にも授業補助学生(通称SA)として様々な講義や実習に参加し、多くの先生方や学生たちと関わることができました。当時は、コロナ禍という特殊な時期ではありましたが、大変充実した大学生活を送ることができたと今でも感じています。

修了後は、長野県の駒ヶ根市にあ

る訓練所で約60日間の訓練に参加し、カメルーンの公用語であるフランス語や海外ボランティアに関する知識を習得しました。

カメルーンへ来て4ヶ月が経った現在、私は南部州にあるクリビ(Kribi)という地域の初等教育事務所(日本で言うところの教育委員会)で体育の専門員として働いています。主な業務としては、管轄の小学校への巡回指導や授業観察、備品管理、資料作成な



どを行っています。しかし、カメルーンの小学校には体育の授業を十分に実施できるほどの設備はなく、用具などは日本からの支援に頼り切っています。指導方法にも課題があり、カリキュラム(Curriculum)と呼ばれる学習指導要領の様な物はあるものの、指導内容や評価基準は曖昧です。先生の中には、私が到着した矢先に「もうあなたが体育をやってよ」と仰る方もいました。しかし、私はこの現状を見

て「これではいけない!なんとか日本式のやり方で変えていかなくては!」とは思いませんでした。なぜなら、これらの現状はカメルーンという国の当たり前であるからです。それらを踏まえて、私は来年度に向けて事務所の上司や校長先生方と話し合い、カメルーン式と日本式の合わせ味噌の様なシステムを作ることになりました。

物が無い、場所がない、教える技術がない土地で体育の授業は定着するのでしょうか。今後どのような困難が待ち構えているかは分かりませんが、これまでの知識や経験を活かしながら、あまりびっくりすることなく誠実に取り組んでいけたらと思います。



体育学科生の活躍

ブラインドサッカー日本代表

体育学科3年生 園部優月

競技との出会いは小学5年生

自分が小学5年生の2014年に、ブラインドサッカーの世界選手権が日本で開催されました。親がその観戦チケットを購入する時に、窓口にいる方に「視覚障がい者が運動する活動はありますか」と尋ねると、「ブラサカキッズトレーニング」というブラインドサッカーの体験会を紹介してくれました。そこでは簡単なボール遊びやドリブから始めて、ある程度できるようになったら徐々にレベルアップして、実際にゲームをしてみるというもので、そこに参加したのがきっかけです。

日本大学との出会い

所属チームに文理学部体育学科卒の方がいて、お話を伺ったのが最初です。体育学科の大嶽先生や伊佐野先生、伊佐野先生のゼミ生が、チームサポートに来てくださることもあり、何かと縁がありました。元々、心理学に興味があり、スポーツ心理学が学べる場所が良いなという思いもあったので、日本大学文理学部体育学科への進学を決めました。

日本代表になった現在

平日は代表練習に参加したり、ジムで筋

カトレーニングを行っています。休日は代表合宿か所属チームの練習に参加して、ほぼ毎日練習しています。

オフの日は他競技や友人との時間を

高校の部活ではフロアバレーをやっていたので、今も長めのオフがあったりするので、高校の部活のお手伝いに行ったりしています。あとは高校時代の友人と出かけたり、家でゆっくり過ごす時間も好きですね。遠征後は数日オフになるので、実家に帰ることもあります。

注目は想像よりも激しいゲーム展開と華やかな連携

ブラインドサッカーはおそらく皆さんがイメージするよりも激しいスポーツなので、激しさに注目してもらいたいです。あとは



見えていなくても音や周りの声、自分の感覚を使うことで、まるで見えているかのような連携が取れるところもポイントです。はじめは「見えていないのにすご

い」という感想を持つと思いますが、他のスポーツを観戦している時と同じような視点で一競技として「今のシュート惜しいな」とか「今がチャンス！」とか、戦略の部分にも注目して、競技自体の面白さを感じながら見て欲しいですね。

世界の舞台に向けて

フランスの世界グランプリへの出場が決まりました。自分は前線で点に絡むポジションで使ってもらえることが多いので、試合に出られた時には、失敗を恐れて中途半端なプレーをしたりしないで、チャンスを作ったり、しっかり得点し、勝利につなげていくことが直近の目標です。



PROFILE

園部優月
そのべゆづき
フーバートめじろ台
2003年9月1日
群馬県
筑波大学附属視覚
特別支援学校

スポーツクライミング日本代表

体育学科3年生 美谷島ももか

兄への闘争心がきっかけに

小学1年生の時に家族で行ったアウトレットにボルダリング体験があって、兄と一緒に挑戦しました。その時は兄の方が登っていて、それが悔しくて、後日もう一度体験に行きました。2回目の時は兄よりも登れて、勝てた気持ちが嬉しくて、元々高いところが好きなこともあり、そこからハマりました。壁のある所をたくさん探して、親に連れて行ってもらって、徐々に大会にも出るようになって、今に至ります。

気付けばクライミング中心の生活

クライミングを始めた当初は、新体操、体操、水泳をやっていました。でも、クライミングが忙しくなって、新体操はすぐやめてしまったのですが、体操と水泳はしばらく続けていました。クライミングに専念するために、大学まで行ける附属校に中学受験するくらいクライミング中心の生活を送っていましたが、体操も好きだったので、中学では体操部に入りました。



た。結局、クライミングが忙しくて幽霊部員になってしまったのでやめてしまいましたけど。

低い壁から高い壁まで練習場所は様々

クライミング競技は3種目あって、私はロープを使って、12m以上ある壁をどれだけ高く登れるか競う「リード」をやっています。パワーも持久力も必要なので、高い壁に登ることで持久力を、低い壁で様々な課題に取り組んでパワーを鍛えています。ジムによって壁の形状が違うので、色々な場所で練習はしています。「リード」は番号が振られているホールドのどこまで行けたかで、判定されます。自分が44Iにおいて、45をとりこいって落ちたら「44+」、44からそのまま落ちたら「44」という差もあります。番号の順番に登る必要はないので、選手それぞれで登り方・攻略の仕方が違います。試合観戦する時は、それぞれの戦法とパワフルな動きに注目して楽しんでもらいたいです。

引退して監督の予定が日本代表に

一昨年に指導者資格を取ったので、今年から国スポ少年女子の監督をすることになりました。大学では、コーチ3の資格取得のため、週3日ですが今も1限から授業に行っ

ています。母が忙しく、家族みんなの夕飯は私が作ったり、クライミング以外も忙しいですね(笑)

最近では以前ほど結果が出なくて、今年2月の日本選手権で引退して、大学生活を満喫しようと考えていたのですが、その日本選手権で良い成績を出して、日本代表入りしました。引退予定だったけど、もう1年頑張ることを決めました。

監督と選手の二刀流

6月末～7月前半で世界大会に出るのですが、シニアの世界大会は初めて出るので、今はそこでも通用するパワーをつけることを目標に練習しています。また、東京都の国スポ少年女子の監督も任されているので、兼任となるのですが、どちらも頑張りたいです。



PROFILE

美谷島ももか
みやじまももか
2004年2月26日
東京都
日本大学高等学校

地域貢献(陸上競技部外部指導員)

体育学科3年生 横尾英恒

私は、世田谷区立中学部活動地域移行化事業に昨年度から外部指導員として参加しています。この事業では区内の3つの中学校による合同で行われており、週に1回世田谷区の陸上競技場で行われています。

私が参加するきっかけとなったのは、所属している陸上競技部からこの活動があるという話を聞き、教員志望である自分にとって良い経験になると考えたからです。

この活動では参加校2つの中学校の教員と日本大学陸上部員2名により行われています。私は、ともに指導員として参加している学生とともに跳躍種目の指導を中心に行っています。私たちは現役で競技を行っているアスリートとして、実際に動きを見せたり、生徒と共に体を動かしたりしながら指導するなどの工夫をしています。週に1度しか教えることができない限られた時間の中で、何を伝えることができるのかを考えながら、毎回の活動に参加しています。

私はこの活動を通して、部活動という様々な目標を持った人がいる集団で、どのような声掛けや意識づけが大切なのかを感じることができました。今後も、生徒の競技力向上に役立てるよう、また陸上競技をさらに好きになってもらえるような指導ができるようにしていきたいです。



地域貢献(バスケットボール部外部指導員)

体育学科3年生 古澤奏良

現在、母校の高校でバスケットボール部のコーチボランティアをしています。私はアドバイスするなどの後輩指導が好きで、高校の部活を引退した後も、大学の進路先が決まってからは頻繁に部活に参加し、それをきっかけに今でも外部指導員を続けています。コートの外から練習を見て、後輩に「ここはこうした方が良い」といったようなアドバイスをかけたり、時には人数合わせとして選手と共に練習に参加したりしています。選手主体で戦術などを考えるチームなので、私からあれこれ言わずアドバイスのみにとどめることを、指導の際は心がけています。

私が、この部活動指導から学んだことは、生徒に嫌々練習させないことであり、生徒が進んで考え、目標に向かって自ら努力させることが大切だということです。部活動はもちろん勝ちにこだわることも大切ですが、部活動というものはバスケットボールの動きだけでなく、心、体、私生活、感情など多様な視点で成長できる場だと考えています。

数年、指導に携わる中で、顧問やコーチの立場は、選手が主体的に考え、プレーしている中の鶴の一声的な存在であるのが良いのではないかなという考えをもち、指導に当たっています。



写真で見る体育学科の「今」



インフォメーション

昨年度より、対面での同窓会事業を実施することが叶いました。また、今年度は10月に代議員会と同日で「学生就職支援交流会 兼 名刺交換会」を実施いたします。就職支援を通して、同窓生同士だけでなく、現役生との繋がりも増えることを願い、体育学科と協力しながら準備してまいります。この機会に、新しくなった本館やサクラスポーツ&ジムナスティックセンター（旧第二体育館）のある、新しい文理学部キャンパスに足をお運びいただけますと幸いです。

体育学科同窓会事務局

〒156-8550

東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部体育学研究室 内

電話: 03(5317)9717

FAX: 03(5317)9426

電子メール: taiiku.doso@gmail.com

ホームページ:

<http://www.nu-taiiku.jp/>



【次年度からの会報発送について】

昨年度の代議員会での報告の通り（p.2）、コロナ禍を経て、同窓会費による収入が減っている一方、昨今の物価高による紙代や郵送代の高騰により、同窓会運営費のほとんどを占めている会報誌に係る費用が増額しております。

上記のことから、円滑な同窓会事業運営の為に、紙媒体での会報誌の発送は、次年度より会費を納入いただいている方を優先に送付させていただくこととなりました。なお、今まで通りホームページからの閲覧は可能ですので、本件につきまして、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

日本アプライドスポーツ科学会 (旧:桜門体育学会)より

2021年度より、桜門体育学会は【日本アプライドスポーツ科学会】に名称を変更し、新たなスタートを切っております。

今年度の第4回学会大会は、日本大学生産工学部が主管となり、オンライン形式での実施を予定しております。学会会則や大会案内等は、日本アプライドスポーツ科学会ホームページをご覧ください。



<https://js-ass.jp/>

事務局より 会費納入のお願い

今年度会費納入の対象となっている同窓生には、払込取扱票を同封しております。そちらの用紙をお使い頂き、郵便局またはコンビニエンスストア等でお支払をお願い致します。同窓生の皆様には大変ご負担をお掛け致しますが、事業を円滑に進めていく上で皆様のご理解ご協力を賜りたいと存じます。

＜納入対象卒業期＞

3期 (S38卒)	8期 (S43卒)
13期 (S48卒)	18期 (S53卒)
23期 (S58卒)	28期 (S63卒)
33期 (H5卒)	38期 (H10卒)
43期 (H15卒)	48期 (H20卒)
53期 (H25卒)	58期 (H30卒)

編集後記

いま大学では、その地域や社会の生涯学習や多様な活動を支え、知の拠点として貢献することが求められています。今回、現役学生の部活動外部指導員としての活動が紹介され、教員だけでなく、学生も地域社会に対して、開かれた大学としての役割を果たしてくれているように感じました。卒業後も大学との関わりを維持し、同窓生の豊富な知識や経験を共有し合うことができ、さらに現役学生とも互いに学び合い、成長する機会を提供できる場が同窓会であり、持続可能な社会に大きく貢献できる組織ではないでしょうか。

今年度、名刺交換会が開催されますが、同窓生同士の絆を深めるとともに、学生のキャリア形成を支援するためにもご協力をお願いいたします。

(第35期 重城 哲)

令和6年度 体育学科年間行事(関連行事含む)

開講式 (文理学部百周年記念館)	4月2日
入学式 (日本武道館)	4月8日
夏季オープンキャンパス (文理学部キャンパス)	7月14日
オーシャンスポーツ実習 (千葉県 岩井海岸)	8月2～3日
キャンプ実習 (山梨県 尾白の森キャンプ場)	9月5～8日
秋季オープンキャンパス (文理学部キャンパス)	9月22日
桜麗祭 (文理学部キャンパス)	11月3～5日
実習体育祭 (日本大学アメリカンフットボール場)	11月10日
創作ダンス発表会 (文理学部百周年記念館)	12月9日
スノースポーツ実習 (長野県 高天ヶ原スキー場)	12月26～29日
アイススポーツ実習 (山梨県 富士急ハイランド)	2月3～5日
卒業式 (日本武道館)	3月25日
学位記伝達式 (文理学部百周年記念館)	3月25日

同窓会へのご意見ご要望を大募集！

より一層充実した同窓会事業の運営の為に、皆様のお力をお貸しください。会報やホームページに掲載して欲しい情報、同窓会で実施して欲しいイベントなど、皆様のアイデアを下記専用フォームもしくは事務局へメール・電話等でお寄せ下さい。

投稿者情報・内容は、同窓会事業の充実や円滑な運営のための必要な範囲内で適切に利用いたします。



<https://forms.gle/2fCrPTFpYXBAmGzEA>